

### 3 第2学年の取り組み

#### (1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
1 学期初め頃 (算数のオリエンテーションの時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジの目的と方法を伝える。</li> <li>最初は教科書の音読を中心に宿題として次の日に学習する問題に取り組ませる。</li> <li>宿題欄に算数チャレンジの項目を設けて意識させる。</li> </ul>
1 学期中頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読にプラスして問題が解ける場合はチャレンジするようにさせる。</li> </ul>
2 学期の初め頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数チャレンジの目的と方法を再確認する。</li> </ul>
1, 2 学期を通して	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き込みをしている児童のノートを全体に紹介する。</li> </ul>

#### (2) 算数チャレンジ・数学的表現活動の工夫に取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

- ◎児童一人一人の理解度に差はあるものの、一度音読させておくことで題意をつかむまでがスムーズになった。それに伴い、習熟の時間を多く確保できるようになった。
- ◎その時間に学習するところを一度やっておくことで、児童は自信をもって自分の意見を言えるようになった。それに伴い、より活発な意見交換の機会も増えた。(挙手する児童が増えた。主体的に対話活動をする子が増えた。)
- ◎学力中位の子が底上げされることで、理解ができていない児童に教師が時間をかけて個別指導ができるようになった。
- ◎宿題として取り組むことで、普段から文章問題をよく読む習慣ができ、児童は気をつけて読むようになった。
- アンケートの結果をみると、算数チャレンジに取り組んでいない児童もいた。学力上位の児童が算数チャレンジのよさをあまり実感できていないので、幅広く算数チャレンジの目的やよさを伝える手立てが必要であると感じた。

#### (3) 目指す児童の姿として参考となる資料

##### 【宿題欄に算数チャレンジの項目を載せた連絡帳】

毎日書く連絡帳に算数チャレンジの項目をいれることで、日常的に取り組む宿題の1つとして意識させる。また、保護者からのチェック欄も設けて家庭での協力を得ながら、積極的に取り組ませる。(資料1)

9月 20日 1kよう日		サイン (○ x)	サイン (◎○△)
①音読 <u>おとす氏</u>	○	○	
②さんすうチャレンジP119	○	○	
③かん字 1 ページ	○	○	
④今日のふりがな	○	○	
読んだところ			
①まちがえず、はっきりと	○	◎	
②「、」や「。」で間をとって	○	◎	
③きもちをこめて	○	◎	

資料1

### 【ペア活動の様子】

算数チャレンジを行うことで、自分の考えが整理され、自信をもって自分の考えを相手に説明することができている。(資料2、資料3)



資料2



資料3

### 【習熟タイムの様子】

授業で学習した知識を、教科書やタブレットの練習問題、プリントを用いて定着させようと意識して取り組むことができている。(資料4、資料5)



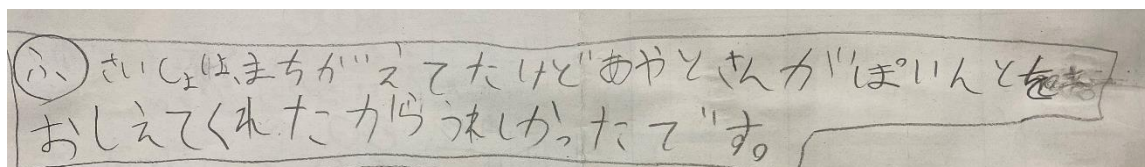
資料4



資料5

### 【授業の振り返り】

授業の最後に、わ・が・と・も（振り返りの視点）を元に振り返りを書いたり、発表したりすることができている。(資料6)



資料6